横芝広報
この広報は各家庭に洩れなく配付します。
発行所・千葉県山武郡横芝町役場（電話）横芝 32・249・339

年頭の辞

横芝町長　伊藤績夫

あけましておめでとうございます。

毎年新年を迎える毎に正月の気分を味わう訳でありますが、何と言いましても家中の方々が全部お丈夫で年越をされることが、まず第一の幸であろうと存じます。茲に本年もまた、町民の皆様が、どうぞ揃って、よい一年をお過しになられますよう、心からお祈りいたすものでございます。

横芝町も丁度町村合併満十周年を経過しようとしています。昨年は合併十周年の式典を挙行して、その喜びを分ち合うことが出来ましたことは、これも一重に町民の皆様の御支援と御協力の賜と厚く御礼申上げる次第でございます。

折柄今年は婦人参政権獲得二十周年にも当りますが横芝町婦人の皆様が御主人を援けられ又生活改善等の魁（さきがけ）となっての活躍をはじめ青年諸君の活躍の目ざましさは、一般町民の皆様と相呼応して、町造りの中心となっておられることも又感謝申上げたいものの一つでございます。

昔、安芸の領主であった毛利元就が、或る日、三人の子供達を膝元に呼び寄せて、それぞれに一本宛の矢を与えて折らせ、容易く折れるのを確めさせて、更に三本を束ね矢を折らせて、今度は容易に折れないのを示し、共同の力の強さを訓えたということであります。

昨年の国勢調査によりますと、横芝の横芝町の人口は、12261人だということであります。勿論此の中には生れたばかりの子供さんも加わっていることではありますが、この人達が一致団結をして町造りに邁進出来ますならば、これこそ、風雲時を得た竜馬となって、素晴らしい大横芝町が完成されることと確信いたしております。

さりながら、不肖町政をお預りいたしております以上、〃皆さんの力で発展させていただけるから〃と、安閑と傍観致しておるものではございません。

一年の計は元旦にあり、昨年来山積しております皆さんからの要望事項、その外実施を迫られている事項等については、じっくりと研究し計画を樹立し、皆様の代表である議員さんの審議は勿論、区長さん、総務さん方の御意見聴取の機会も努めて多くして、一日も早く実施に移し、よりよい横芝町完成に精進する覚悟でありますことを申上げ新年の御挨拶に代えさせていただきます。

ごあいさつ

横芝町議会議長　伊東　巌

横芝町民の皆様、関係機関の皆様、新らしい年を元気で迎えられたことを心からお喜び申上げます。

昭和四十一年の新春に当り一言御挨拶をさせていただきます。

皆様には、日頃から私達議会人の仕事に対しまして、格別の御協力をいただき、まことに有難うございます。

私達議会議員は、今期の議員に就任以来三年目を経過いたしました。幸い皆様の限りない御支援と御努力の現れは、年を追って町の発展となっております。

元より、私共議会人は、横芝町行政施策の要素について皆様の御意見を反映させるのがその使命と心得ております。言いかえれば、町民の皆様が有っての私達であり、その御希望と御協力がなくては、私の仕事は全く無意味という外はありません。それだけに議場に於ける討論の烈しさ、深更に及ぶ研究討議と、努めていわゆる、慎重審議に専念して参ったつもりでございます。しかし、町全体という見致からしますと、時には一部御期待に添いかねる決議もあり御忍耐願わなければならなかった点を深くお詫び申上げたいと思います。

さて、発展途上の横芝町も昨年は、合併十周年式典を挙行し、本年は十一周年に入ります。総て一という数字は始まりを意味するもと言われます。多岡に漏れず私達の町にも今年は数々の新規或いは新規に類する事柄が計画立案されて議会の審議を待っております。その一つ一つが毫にゆるがせに出来ぬ事柄であり、或意味では、昭和四十一年は議会試練の年とも考えられ、例年の繰言のようではありますが、心を新たにして、気持を正し、皆様の御期待に添うべく努力を積み重ねる覚悟でございます。

どうぞ昨年同様、御支援と御鞭撻をお願い致し、尚皆様の御健勝と御自愛をお祈りしまして、新年の御挨拶といたします。

国道改良工事着工

完成は四十一年度中
警察庁舎は本町裏通りに移転

本紙二五号でお知らせしました国道改良工事は其後順調に進捗し十二月十日には警察～栗山川間八百米の改良工事に着工した。完成は四十一年中の予定であるが、完成後は舗装部分が八メートルのバイパス路線となる筈で、警察～琴平神社間約千メートルは四十一年度に着工して栗山橋梁の工事と共に施行して当年度内に完成し金線完通の見込となっている。

国道敷地になる現警察官幹部派出所は隣接の本町地籍に移転

国道改良工事の施行に当って現在の警察官幹部派出所は現在の敷地内に入るので、代替地を探していたが、此の程隣接地を候補地として、地主と接衝を行ない、移転の準備を進めている。

民生委員改選

――青少年相談委員も――

昭和四十年十一月三十日で任期が了しますので、推せん会を開催し次の通り新委員の委嘱を厚生省に申請した。正式委嘱は追って伝達される筈であるが、此の方々は来る四十三年までの三年間民生事業を担当されることになっている。氏名次の通り、（敬称略活孤内相当地区）

斎藤　明（上町一、二）大木梅吉（上町三、四）伊藤うら（本町一、二、三）高知尾都江（本町四、古川、雨国）土屋源吾（東町一）伊藤源之助（東町二、三、四）若梅原次（栗山中の中、四）青芝会、東ケ丘を除く全部）鈴木重雄（栗山四、同四ノ二）青芝会、東次治（鳥喰上、沼）市原　利清（鳥喰新田）伊藤章（宮前、南）菅　しげ（南川岸）海保豊蔵（立会）早川さい（屋形荒場、三本松）伊東たけ（新島金域）斎藤重良（北清水金域）伊藤よし（木戸台、町原）伊藤辰男（小堤、寺方）鈴木恒（坂田、於幾、曽根上）越川武（〃）伊能央（鳥下）秋山嵩雄（鳥沼）伊藤満睦（〃）河合喜久雄（〃）川井茂（〃）石渡達男（〃）川島忠敏（北清水）伊藤武（〃）伊藤沖（新島）斉藤仁一（〃）藤崎文夫（〃）

因みに新相談員役員は会長　柳橋　敏博　副会長　斎藤　仁一　市原　利一　瞬間　岩沢　清之　の各氏が選ばれた。

国民が生活して行く上の、あらゆる、特に経済面についての相談機関でもあるので、何か悩みごとがあった場合は、遠慮なく相談に行かれるようおすすめしたい。

議会だより

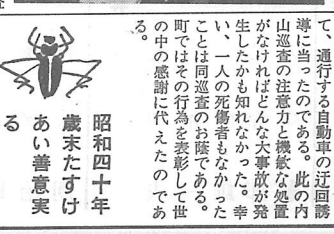
昭和四十年横芝町第六回議会（臨時会）＝昭和四十年十一月五日付、昭和四十年十一月八日午后二時召集のもの、第一号議題、山武郡環境衛生事業振興組合の設置について（山武、芝山、蓮沼、松尾、横芝各町村が環境衛生に関する事業を共同処理するために事業組合を設置するもの、主として塵芥処理場）第二号議題、山武郡環境衛生事業振興組合議員の選挙について（議題標記の議員一名を選出するものであるが、投票の結果伊藤右仲議員と決定）第二号議題、横芝町監査委員選任の同意について（地方自治法の規定に従って、横芝町監査委員を選任するもの、結果横芝一三九九ノ二越川与司夫氏に決定）第三号議題、大字区域の変更について（地方自治法の規定に従って、山武郡横芝町大字坂田外の一部の区域を変更するもの）第四号議題　昭和四十年度横芝町歳入歳出補正予算議定について（合併十周年記念事業費用二五万、塵芥処理費二〇万消防団退職費二五万の追加を主とする差引合計八一万八千円の歳出を行ない、その財源としては、諸収入二八万　町債二〇万等合計八一万八千円を充当するもの）日程第六号、横芝中学校給食実施陳情について、（横芝中学校PTAから提出された、給食実施の陳情に対して審議するもの、結果、今後お互いに研究することに落ち付く）以上を審議する。取敢えず準備を進めることに落ち付く）以上を審議決定。昭和四十年横芝町第七回議会（定例会）＝昭和四十年十二月二十日付、昭和四十年十二月二十三日午前十時召集のもの、第一号議題、昭和四十年度横芝町一般会計補正予算議定について、（青年館建設費二四万、園芸振興費一〇七万、道路維持費一二〇万土地取得費八〇万等を主として増額、道路新設改良費一五〇万、学校建設費八五七万等出減額、収入額では教育費国庫負担一四〇万、不動産売払収入七〇万、教育費二六〇万代七〇万、繰越金三三万、雑収入差引二八八万六千円の減額を行なうもの）第二号議題、昭和四十年度横芝町老人ホーム特別会計補正予算議定について、（第九号議題　町の境界変更について、（第山川畔の横芝地籍の一部を光町に編入するもの）第九号議題　横芝町職員定数条例の一部を改正する条例制定について（収容人員の増加に伴なう老人ホームの職員定数を増加するもの）以上　九議件を審議決定した。尚此の議会終了後協議会打合事項として、昭和四十一年度有線放送電話の全面改修。上堺小学校体育館建設工事の随意契約取りこわし校舎の売却については産業、文教両常任委員会に一任する等の申合せを行なった。

災害を未然に防いだ

警察官を表彰!!

横芝町では、消防団幹部会議の席上で、災害未然防止の理由によって、上堺警察官派出所の内山巡査を表彰した。

同巡査は、去る九月十七日合風二十四号の警報が発令されるや直ちに警戒指導に当っていたが、平素も住民の安全保護に専念している内山巡査の顔には、数日前にパトロール中「若し雨でも烈しくなると危険が生じはしないか」と気にした三本松地先の木戸橋の損傷が思い出された。外はまだ暗かったが、危険防止は寸刻も争う認識に、内山巡査は懐中電灯を肩にさげて、木戸橋にオートバイを走らせた。馳せ付けて良かった。此の橋は緑海、連沼方面から光町を通り抜ける重要道路上にあり、常にトラック、乗用者が往来している所である。それが急に増した水勢に小型トラックでもこれを通行することは、転落を意味する程に崩壊していたのである。同巡査は、直ちに付近の家から電話を通じて消防団の緊急配置を依頼し、自らは、橋桁に立って、通行する自動車の迂回誘導に当ったのである。此の内山巡査の注意力と機敏な処置がなければどんな大事故が発生したかも知れなかった。幸い、一人の死傷者もなかったことは同巡査のお蔭である。町ではその行為を表彰して世の中の感謝に代えたのである。



（経額所長と権名消防団長に囲まれたお手柄の内山巡査（中央））

昭和四十年歳末たすけあい善意実る

昨年度歳末たすけあい運動による寄付金等は次の通り。

横芝町婦人会

横芝地区　二二、六五〇円
もち米　五九、五三二ℓ

上堺地区　五、〇一〇円
もち米　七七、五七二ℓ

大総地区　二、七五〇円
もち米一二二、六七二ℓ

千葉窯業KK　二、〇〇〇円
東町伊藤家具店一、〇〇〇円
横小三七年度卒業生第四組同級会上野敏蔵外一、〇〇〇円
役場職員一同　六、五三〇円
押尾喜世治　バケツ　五〇ケ

◎総計
もち米　二五九、七七六ℓ
金　額　四〇、九四〇円
バケツ　五〇ケ
以上

これは社会福祉協議会を通じて十二月中にいろいろな事情で生活に困っておられる各家庭に届けられた。